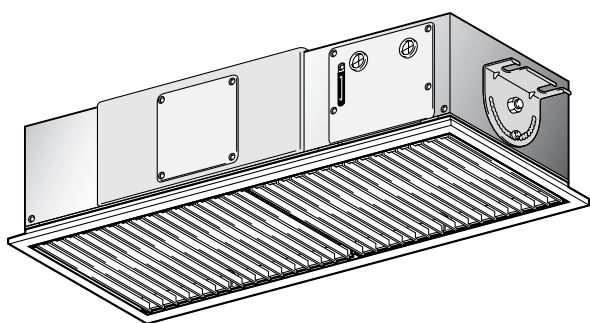


エアースイングファン

形名

AS-908CSA・AS-915CSA (高機能タイプ)

据付工事・取扱説明書



も く じ

ページ

1. 安全のために必ず守ること	お客さまへ 工事店さまへ	2
2. 外形寸法図	工事店さまへ	3
3. 据付方法	工事店さまへ	4
1. 据付前の準備		4
2. 本体の据付け		5
3. 電気工事		
■ リモコンスイッチの接続		6
■ 外部制御入力		7
■ 電源線の接続		8
■ 本体スイッチの設定		8
4. リモコンスイッチの取付け		9
5. 試運転		10
6. グリル取付けの準備		10
7. グリルの取付け		10
4. 使用方法	お客さまへ	11
5. お手入れのしかた	お客さまへ	11
6. アフターサービス	お客さまへ	12
7. 仕様	工事店さまへ	12

お客さまへ

ご使用の前に必ずこの説明書をお読みになり、正しく安全にお使いください。
なお、添付別紙の「三菱業務用/産業用換気送風機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」とともに大切に保管し、必要なときお読みください。

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

工事店さまへ

据付工事を始める前に必ずこの説明書をお読みになり、正しく安全に据付けてください。
据付工事は販売店さま、または専門の工事店さまが実施してください。

■この製品は単相 100V 50/60Hz 用です。電源を確認して据付工事を行ってください。

■この製品には、システム部材（別売）のリモコンスイッチが必要ですので、別途ご用意ください。また、グリルはシステム部材（別売）となっていますので、別途ご用意ください。

■この製品は、包装状態においてケーシング変形防止用保護パット（ダンボール）が取付けられています。パットを取付けた状態で設置作業を行い、グリル取付の際に取りはずしてください。

1. 安全のために必ず守ること

お客さまへ

工事店さまへ

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの



注意

誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

お客さまへ



警告



禁止

- ガス漏れに気付いたときは、スイッチの入・切をしない
爆発・引火の原因。



水ぬれ禁止

- 製品を水につけたり、水をかけたりしない
ショートや感電の原因。



分解禁止

- どんな場合でも改造はしない
分解修理は修理技術者以外の人に行なわない
火災・感電・けがの原因。
修理はお買い上げの販売店または当社のお問合わせ窓口にご相談ください。



接触禁止

- 運転中は危険ですから、吹出口の中や可動部に指や物を入れない
けがの原因。
- 電源が入ったままで運転が停止しているときは、製品には絶対にふれない
突然運転し始めてけがや感電の原因。



指示に従う

- お手入れの際は必ず分電盤のブレーカを切る
感電・けがの原因。
- 定格電圧・定格周波数で使用する
火災・感電の原因。



注意



禁止

- 本体に異常な振動が発生した場合は使用しない
本体・部品の落下によりけがの原因。
- 本体にぶらさがらない
落下によりけがの原因。
- 爆発性の粉塵やガスの発生する場所または発生するおそれのある場所では使用しない
爆発や火災の原因。



指示に従う

- お手入れの際は手袋を着用する
着用しないとけがの原因。
- お手入れの後の部品の取付けは確実に行う
落下によりけがの原因。
- 長時間で使用にならないときは、必ず分電盤のブレーカを切る
絶縁劣化による感電や漏電火災の原因。

工事店さまへ



警告



禁止

- 燃焼機器の燃焼部に風を直接当てない
不完全燃焼したり、炎が消え一酸化炭素中毒を起こす原因。
- ガス漏れに気付いたときは、スイッチの入・切をしない
爆発・引火の原因。



水ぬれ禁止

- 製品を水につけたり、水をかけたりしない
ショート・感電の原因。



分解禁止

- 改造や必要以上の分解はしない
火災・感電・けがの原因。
分解・修理はお買い上げの販売店または当社のお問合せ窓口にご相談ください。



指示に従う

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に据付ける場合、ボルトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように据付ける
漏電した場合発火の原因。
- 結線作業、ツマミ調節、ジャンパー線切断等を行う際は必ず分電盤のブレーカを切る
感電・けがの原因。
- 定格電圧・定格周波数で使用する
火災・感電の原因。



注意



禁止

- 浴室など湿気が多い場所（湿度90%以上）には絶対に据付けない
感電・火災の原因。
- 爆発性の粉塵やガスの発生する場所または発生するおそれのある場所には据付けない
爆発や火災の原因。
- 壁から出ている埋込みボルトには据付けない
振動により製品や建物の破損の原因。
- いかなる据付面に対してもモータ軸水平以外の据付けはしない
振動により製品や建物の破損の原因。
- 角度調整の際、中央の戻り止めナットははずさない
落下によりけがの原因。



指示に従う

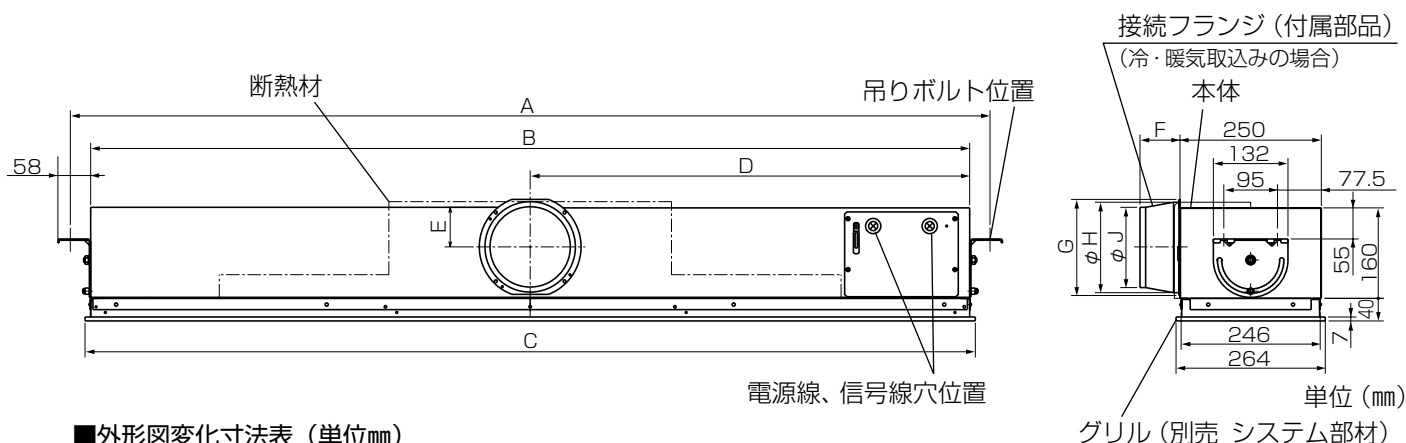
- 本体の据付工事は十分強度のある所を選んで確実に行う
落下によりけがをする原因。
- 埋込みボルト（吊りボルト）・ナット・ワッシャーは指定のものを使う
落下の原因。
- 各部品は確実に取付ける
落下によりけがをする原因。
- 電気工事は必ず有資格者である電気工事事士が内線規程や電気設備技術基準に従って行う。絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分は JIS C 8340 の「電線管用金属ボックス」内で行う。
接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。
- 据付けの際は手袋を着用する
けがの原因。
- 左右同じ据付角度になるよう、据付板の切欠部を確認する
左右の角度に違いがあると、本体がねじれて振動が発生し、異常音の原因。

お願い

- 据付場所が悪いと故障の原因になります。次のような場所には据付けないでください。
 - ・0℃以下もしくは45℃以上になる場所（リモコンスイッチは0℃以下もしくは40℃以上になる場所）
 - ・屋外
 - ・浴室等湿度の高い場所
 - ・油煙や蒸気の多い場所
 - ・繊維工場、製陶工場など多量の綿ぼこりや砂塵、粉塵の発生する場所
 - ・0℃以下の冷蔵庫、冷凍室など低温場所
 - ・酸性・アルカリ性ガスの発生・流入する場所
 - ・可燃性ガスの発生、流入、滞留、漏れのある場所
- この製品は高所据付け用です。危険防止のため、人が容易に触れることができる場所には据付けないでください。
- 接続フランジおよびダクトは、結露防止のための断熱処理を行ってください。
- ダクト取入風量は908タイプで150m³/h以下、915タイプで300m³/h以下としてください。
- 配線系統にモーターブレーカなどを使用してください。
- ダクト取込空気温度は15～55℃です。
- ダクト接続時、停止中に冷気が入ると結露します。運転停止と同時に冷気を遮断するよう空調気流取込みダクトに必ず電動式ダンパーを設置してください。
 - また、電動式ダンパーは結露による漏電の心配のないものを使用してください。
- 本体単独での運転はできません。必ず専用のリモコンスイッチ（別売システム部材）と合わせてご使用ください。

2. 外形寸法図

工事店さまへ

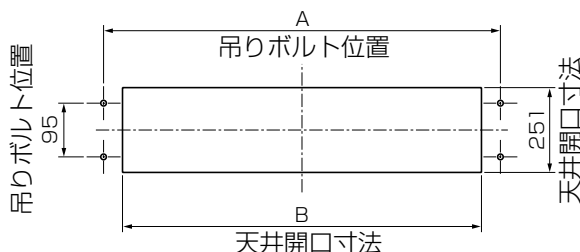


■外形図変化寸法表 (単位mm)

形名	A	B	C	D	E	F	G	H	J	冷暖気取込み用ダクト径
AS-908CSA	862	790	810	452	71	60	135	110	97.5	φ100
AS-915CSA	1627	1555	1575	777.5	70	70.8	170	160	142	φ150

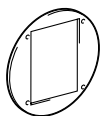
■天井開口寸法変化寸法表 (単位mm)

形名	A	B
AS-908CSA	862	797
AS-915CSA	1627	1562



付属部品

- 接続フランジ……………1個
- フランジベース……………1個 (AS-915CSAタイプのみ)
- 落下防止ワイヤー…2本
- 位置決め用小ネジ (M4×20) ……4本
- 小ネジ (M4タッピン) ……2本



3. 据付方法

工事店さまへ

本体の据付工事は、振動のない十分強度のあるところを選んで確実に行ってください。
取付板の角度を調節することで、モータ軸水平方向に対して天井角度に制限なく据付可能です。

■お客さま手配部品（市販品）

- ①本体据付用に、吊りボルト（M8またはM10）とナット、ワッシャー（外径21 mm以上）をご用意ください。
- ②信号線や外部入力線には、電話線など無極性2線（PVC線単線φ0.65～φ1.2、またはより線0.3～1.25 mm²）を使用してください。
- ③ダクト接続する場合は、停止と同時に冷気を止めるために必ず電動式ダンパーを設置してください。また、電動式ダンパーは結露による漏電の心配のないものを使用してください。

■据付例

（単位mm）

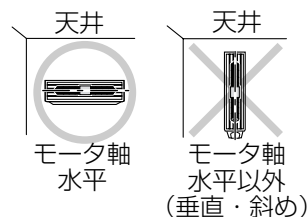
天井埋込据付の場合	斜め天井据付の場合	壁据付の場合	露出据付の場合
ダクト（空調気流取り入れ時） 吊りボルト（お客さま手配） 天井 グリル（別売 システム部品） 本体 230以上 105～115	吊りボルト（お客さま手配） スライドレール（お客さま手配） ダクト（空調気流取り入れ時） 斜め天井 本体 グリル（別売 システム部品） 200～800 200～800	吊りボルト（お客さま手配） スライドレール（お客さま手配） 壁 グリル（別売 システム部品） 本体 200～800 ダクト（空調気流取り入れ時）	吊りボルト（お客さま手配） 天井 本体 200～800 200 ダクト（空調気流取り入れ時） グリル（別売 システム部品）

お願い

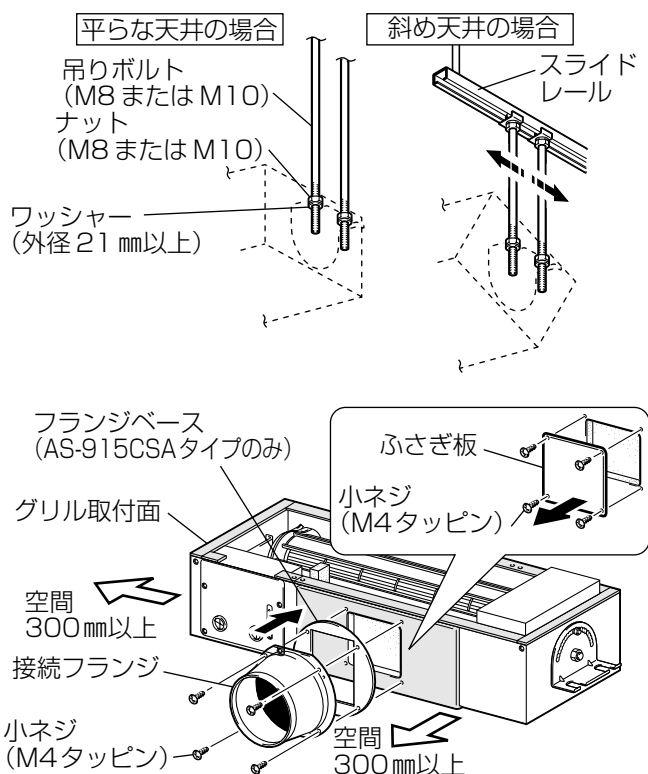
- 天井埋込およびダクト接続する場合は、天井面との高さに注意して設置してください。
- ダクト接続する場合は、製品本体への結露水の浸入防止のため下り勾配をつけてください。（1/30以上）

⚠ 注意

- いかなる据付面に対してもモータ軸水平以外の据付けはしない
振動により製品や建物の破損の原因。
- 埋込みボルト（吊りボルト）・ナット・ワッシャーは指定のものを使う
落下の原因。
- 埋込みボルト（吊りボルト）は十分強度のある天井面に固定し、壁面には固定しない
振動により製品や建物の破損の原因。



1. 据付前の準備



1. 外形寸法図と据付例を参照し、強固な据付場所に市販の吊りボルト（M8またはM10）を長さ800 mmを超えないように埋め込む。

お願い

- 吊りボルトは、振れ止め用耐震支持部材にて必ず補強を行なってください。
- 吊りボルトの長さが800 mmを超える場合は、さらに防振吊金具等による防振対策を施してください。
- 吊りボルトの位置が、天井開口穴に対し片寄らないようにしてください。
- 斜め天井・壁据付の場合、スライドレール等を使用してください。位置調節が容易になります。

2. あらかじめ吊りボルトに市販のワッシャー（外径21 mm以上）・ナット（M8またはM10）を取付ける。

空調気流送風する場合

1. あらかじめ取付けられているふさぎ板をはずす。
2. 付属の接続フランジ、フランジベース（AS-915CSAタイプのみ）を小ネジで本体に取付ける。
（ダクト接続については6ページ）

お願い

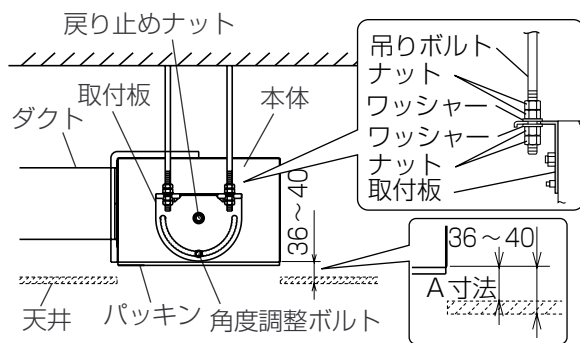
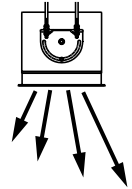
- エアースイングファンの周囲 300 mmは、空間を確保してください。作業ができなくなります。
- 天井埋込据付の場合はグリルをはずす事で点検は可能ですが、本体横（電源線端子側）に 45 cm角以上の点検口を設置いただくと保守・点検が容易になります。
- 本体を据付ける時や本体を置く時はグリル取付面を下向きに置かないでください。
- 本体を持ち上げる時は、取付板を持って作業してください。ケーシングや羽根は直接持たないでください。

2. 本体の据付け

⚠ 注意

- 図中 A 寸法が 30 mm以下となる場合、天井を貼る前に開口しておいてください

- 首振り運転する場合、首振り方向の気流到達距離が左右で異なります。カタログ・納入仕様書で風速分布を確認の上据付方向を検討してください

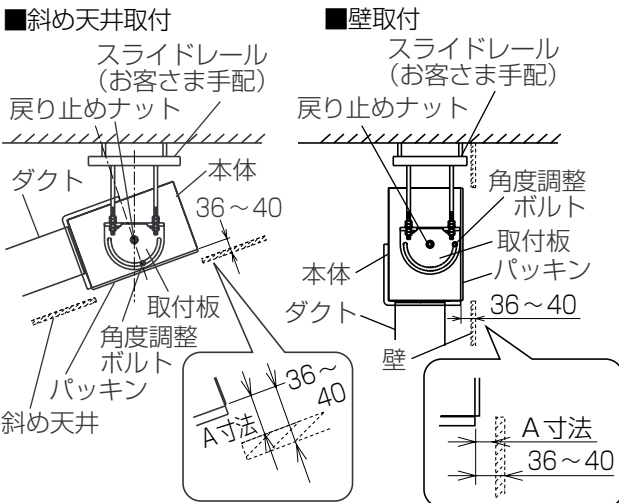


天井面が平らな場合

あらかじめ埋込んでおいた吊りボルトに取付板を通し、本体が水平になるように市販のワッシャー、ナットを使用して確実に据付ける。

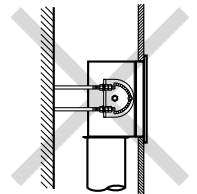
天井面が斜めの場合（斜め天井・壁据付）

斜め天井、壁に対して本体が平行になるように取付板の角度を調整し据付ける。



⚠ 注意

- 壁から出ている埋込みボルトには据付けない
振動により建物の破損の原因。



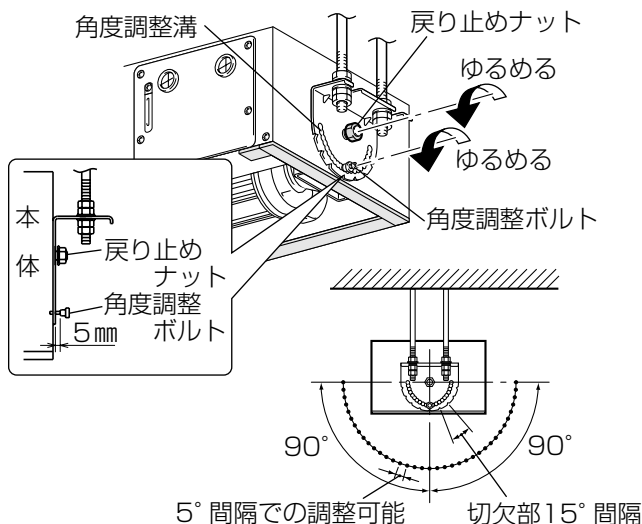
■角度調整方法

本体角度は水平から垂直まで 5° おきに調整が可能です。

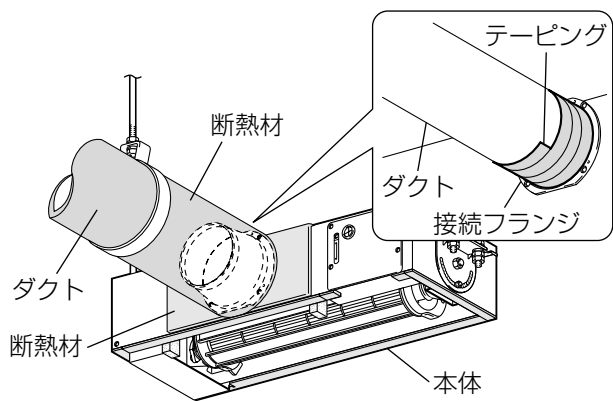
1. 本体据付後、戻り止めナットをゆるめ、角度調整ボルトを 5 mm程度出っ張るまでゆるめると本体が動きます。
2. 角度調整を行った後、左右の取付板の角度が同じになるように切欠部を目安として角度調整溝に角度調整ボルトを締め付け、戻り止めナットを締め付ける。

⚠ 注意

- 角度調整の際、中央の戻り止めナットははずさない
落下によりけがの原因。
- 左右同じ角度になるよう、取付板の切欠部で確認する
左右の角度に違いがあると本体がねじれて、振動が発生し、異常音の原因。



3. 据付方法 つづき



空調気流送風する場合

ダクトを接続する

1. 接続フランジにダクトをしっかり差し込み、風漏れのないよう市販のアルミテープでテーピングする。
2. ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊るす。
3. 接続フランジおよびダクトは、結露防止のための断熱処理を行う。

- 停止と同時に冷気を止めるために必ず電動式ダンパー（断熱処理してあるもの）を設置してください。

3. 電気工事

⚠ 警告

- 定格電圧・定格周波数以外では使用しない
火災・感電の原因。
- 漏電ブレーカを必ず設置する
感電やけがの原因。

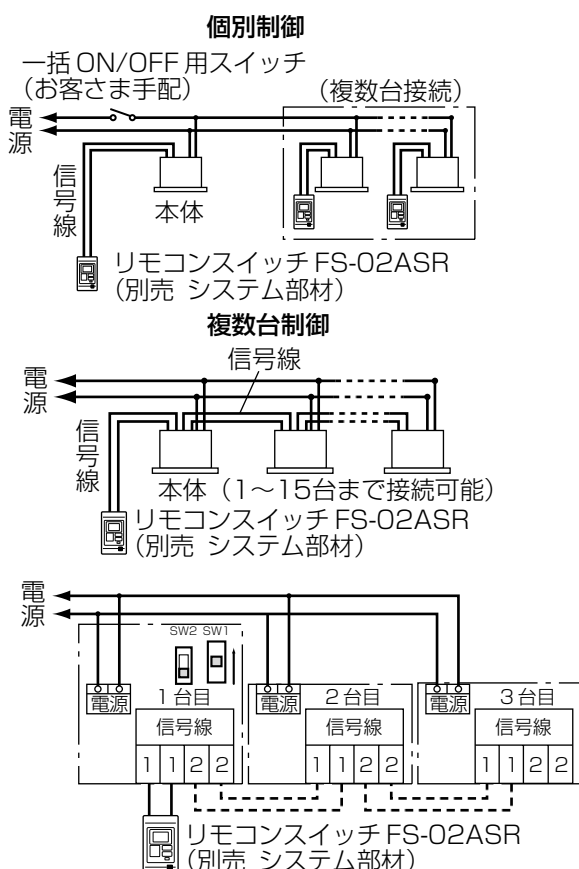
⚠ 注意

- 電気工事は必ず有資格者である電気工事士が内線規程や電気設備技術基準に従って行う。絶対に「手より接続」はしない。又、電源電線の結線部分は JIS C 8340 の「電線管用金属ボックス」内で行う。
接続不良や誤った配線工事は感電・火災の原因。

お願い

- モータの過負荷保護のため、モータブレーカまたは電磁開閉器（電磁接触器＋サーマルリレー）の過負荷保護装置を設置してください。過負荷保護装置は必ず機器 1 台ごとに設置してください。
(過負荷保護装置の選定にあたっては仕様欄、12 ページの電流値の 1.2 ～ 1.5 倍を目安にしてください)
- 信号線の総延長距離は 300m 以内としてください。(通信異常の原因となります)

リモコンスイッチの接続



個別制御する場合

- 個別に制御する場合は、エアースイングファン 1 台に対してリモコンスイッチ 1 台を設置してください。

複数台制御する場合

- リモコンスイッチ 1 台で最大 15 台のエアースイングファンを一括制御できます。

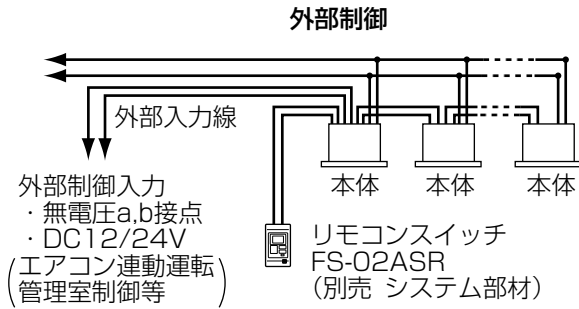
本体スイッチの設定

- リモコンスイッチを接続した本体は基板上的 SW1（リモコン接続）を矢印の方向に切換えてください。

お願い

- リモコンスイッチを接続した本体以外の SW1 は切換えないでください。
複数台制御時、2 台目以降の本体の SW1 を切換えた場合、リモコンの故障等を生ずることがあります。

■外部制御入力



下記の外部制御が可能です。外部制御入力のリモコンスイッチを接続する本体に接続してください。

お願い

- 複数台に外部入力はできません。
- 外部制御入力の無電圧 a,b 接点と有電圧 12/24V は同時に使用することはできません。外部制御入力のリモコンスイッチを接続する本体に接続してください。

管理室等にて運転制御する場合 (無電圧 a 接点または b 接点)

外部の無電圧接点によりエアースイングファンを運転停止させることができます。風速、首振動作の設定はリモコンスイッチにてあらかじめ設定しておきます。

本体スイッチの設定

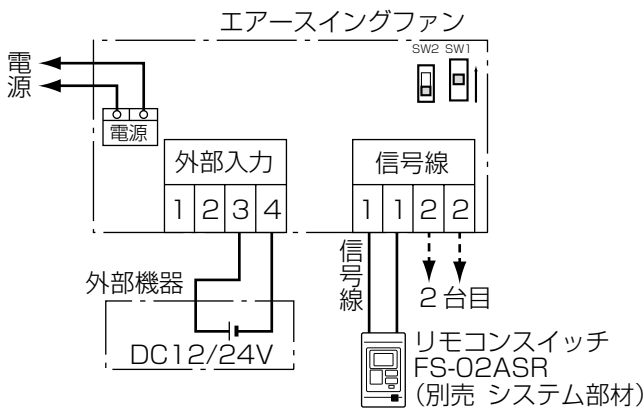
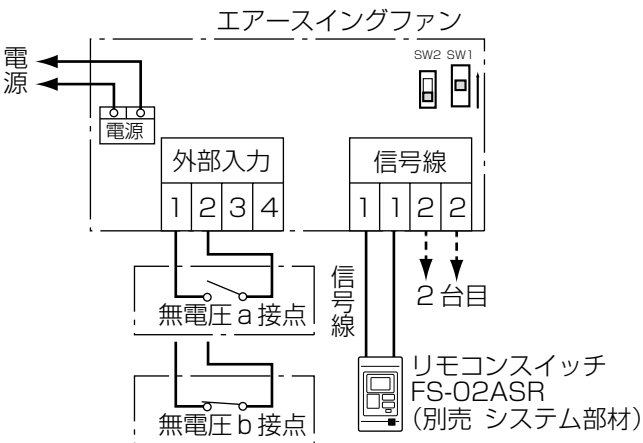
- リモコンスイッチを接続した本体は、基板上的 SW1 (リモコン接続) を矢印の方向に切換えてください。
- 無電圧 b 接点を使用する場合は、ジャンパー線 J1 を切断してください。

空調機等の外部機器と連動する場合 (DC12/24V 有電圧信号)

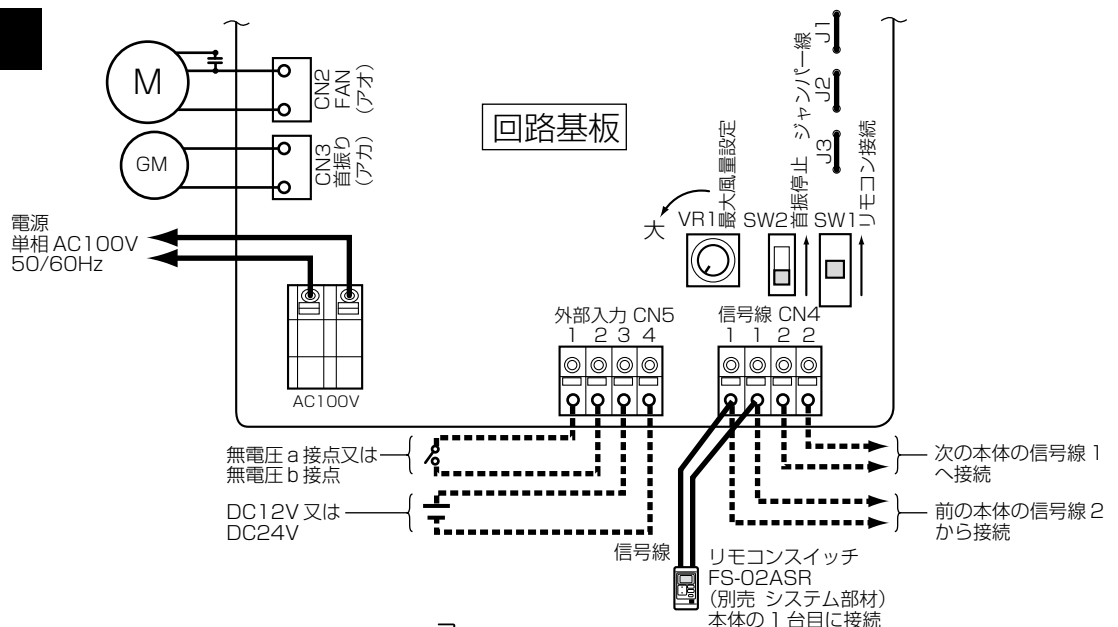
外部機器からの外部入力によりエアースイングファンを連動運転させることができます。

本体スイッチの設定

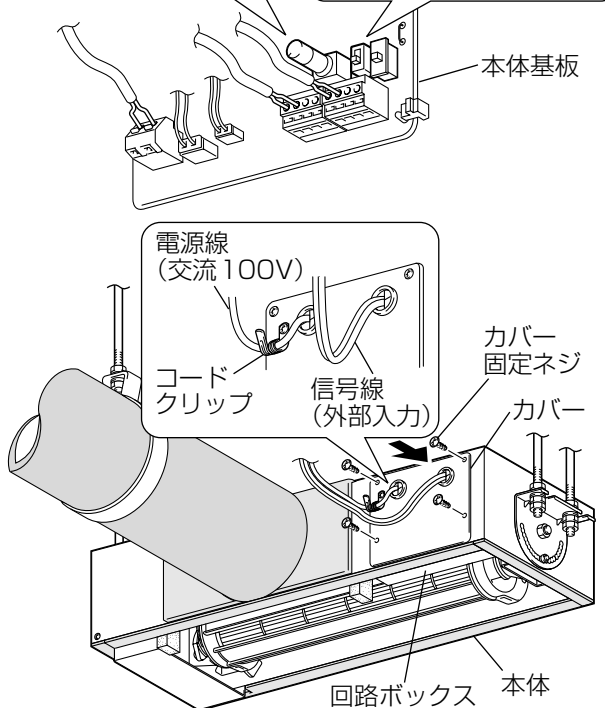
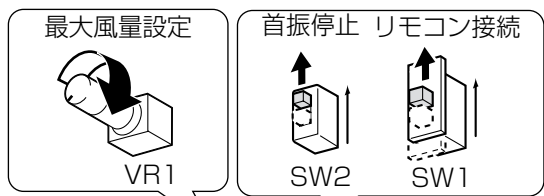
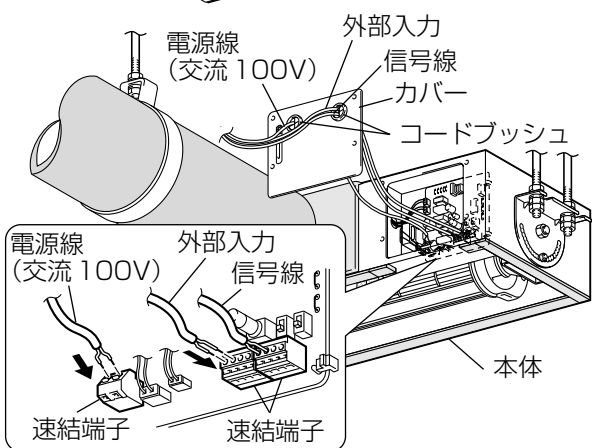
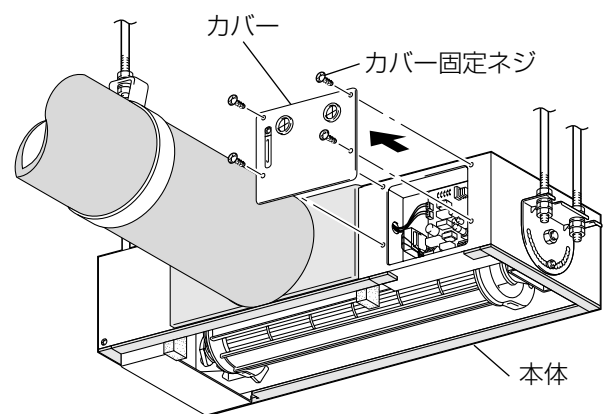
- リモコンスイッチを接続した本体は、基板上的 SW1 (リモコン接続) を矢印の方向に切換えてください。



結線図



3. 据付方法 つづき



■電源線の接続

1. カバー固定ネジ4本をはずし、カバーをはずす。
2. 電線をカバーの穴から引き込み、システム例とカバー裏側に貼っている結線図を参照して結線する。
 - 電源線 (単線 $\phi 1.2 \sim \phi 1.6$ VVF) は先端 11 mm 皮ムキして、電源用速結端子に確実に差し込みます。
 - 信号線と外部入力は先端 11 mm 皮ムキして、信号線、外部入力用速結端子に確実に差し込みます。適用電線は電話線など無極性 2 線 (PVC 線単線 $\phi 0.65 \sim \phi 1.2$ 、またはより線 $0.3 \sim 1.25 \text{ mm}^2$) を使用してください。

⚠ 警告

- 結線作業、ツマミ調節、ジャンパー線切断等を行う際は必ず分電盤のブレーカーを切る
感電・けがの原因。

■本体スイッチの設定

1. システム例と左図を参照して本体のスイッチ設定を行う。
2. 他に次のような設定も可能。
 - 特定の本体のみ首振停止をする場合 (複数台制御のとき)
首振停止したい本体の SW2 (首振停止) を矢印の方向に切換えてください。
 - 特定の本体のみ風速制限をかける場合 (複数台制御のとき)
最大風量設定のボリューム VR1 のツマミを適当な量だけ右側に回します。
工場出荷時は左側いっぱい (最大ノッチ 8) に設定されています。

お願い

- リモコンスイッチを接続した本体以外の SW1 は切換えないでください。
複数台制御時、2 台目以降の本体の SW1 を切換えた場合、リモコンの故障等を生ずることがあります。

3. 結線と本体設定が完了したら、再度、結線とスイッチ設定を確認し、カバーを元通り取付ける。

お願い

- 電線の長さは余裕をもたせて配線してください。
(電線長さに余裕がないと、設置後回路ボックスを取りはずせなくなります)

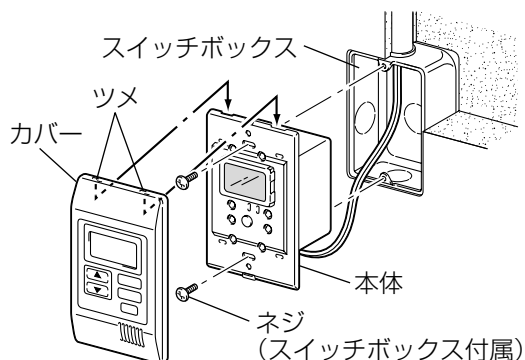
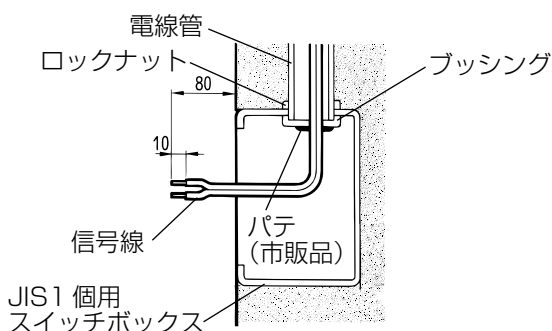
4. リモコンスイッチの取付け

■お客さま手配部品（市販品）

- ①取付けには JIS C 8340 に規定されるスイッチボックス 1 個用（カバーなし）をご使用ください。
- ②適用電線は電話線など無極性 2 線（PVC 線単線 ϕ 0.65 ～ ϕ 1.2、またはより線 0.3 ～ 1.25 mm²）を使用してください。
- ③電線管は薄鋼電線管（JIS C 8305）呼び径 15 ～ 25 を使用してください。

■工事上のお願い

- 指定を越える太さの電線を速結端子に差し込まないでください。（破損の原因）
- 電線管の中には他の電線をいっしょに入れしないでください。（通信異常の原因）
- 複数の信号線を多芯ケーブルで配線しないでください。（通信異常の原因）
- 配線の総延長は 300m 以内としてください。（通信異常の原因）



1. 配線をする。

あらかじめお客さま手配部品にて埋込スイッチボックスを埋め込み、エアースイングファンからの信号線を配線する。このときエアースイングファン本体の電源が入っていないことを確認する。

- 外気侵入による結露防止のため市販のパテで確実にシールします。

お願い

- 電線管の取出し方向は、ボックスの上下方向のみで左右方向はできません。

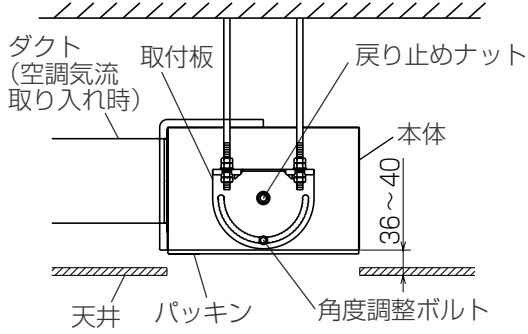
2. リモコンスイッチとの取付けは、システム部材（別売）のリモコンスイッチ（FS-02ASR）の取付・取扱説明書に従う。

- 外部制御入力をする場合は、リモコン運転モードを下記に従って設定します。

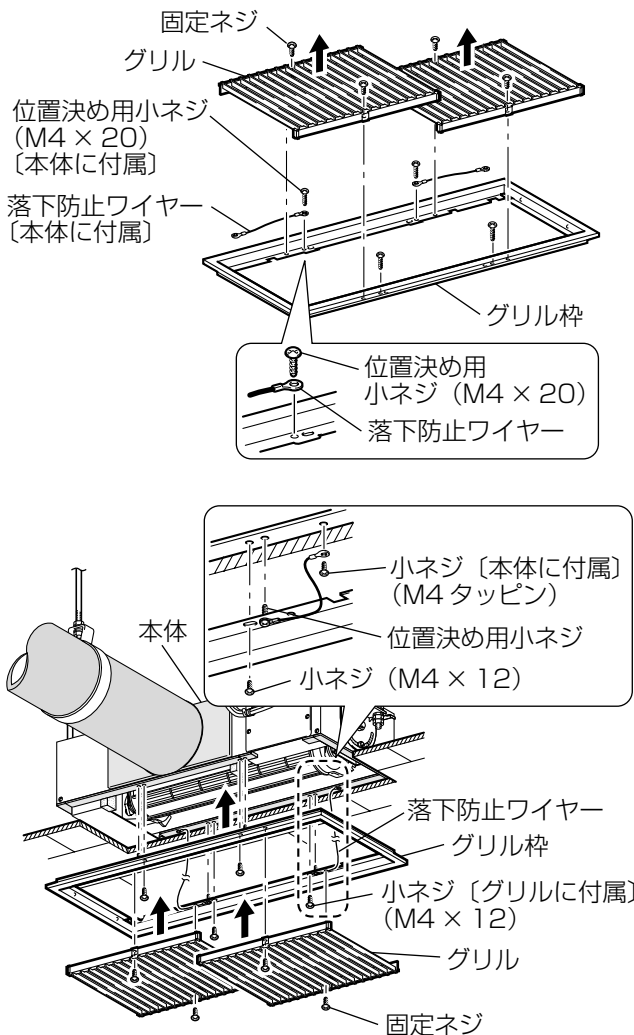
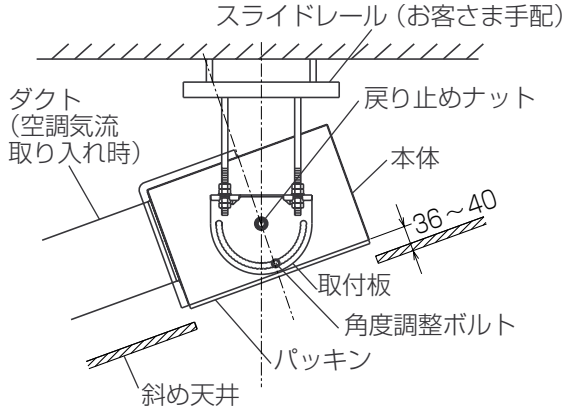
リモコン運転モード設定		動作説明
表示番号	運転モード	
01	ON/OFF 連動	外部制御入力により、エアースイングファンの「運転」「停止」を行う。(a 接点入力では、①-②間短絡にて運転、①-②間開放で停止。有電圧入力では、③-④間入力にて運転、無電圧で停止) リモコンによる後押し操作可能。
02	OFF 連動	外部制御入力により、エアースイングファンの「停止」動作のみを行う。(①-②間短絡にて、停止。①-②間開放では、運転は再開しない) リモコンによる後押し操作可能。
03	ON/OFF 連動 (外部入力優先)	外部制御入力により、エアースイングファンの「運転」「停止」を行う。外部制御入力中はリモコンによる「停止」はできない。(①-②間短絡にて運転し、リモコン受付禁止。①-②間開放にて、停止) 停止中は、リモコン受付可能。

据付方法 つづき

〔天井面が平らな場合〕



〔天井面が斜めの場合〕



5. 試運転

詳しくはリモコンスイッチ (FS-02ASR) の試運転に従って行ってください。

6. グリル取付けの準備

1. あらかじめはられた天井板に、外形寸法図と取付例を参照し、開口穴を開ける。
2. 天井から本体枠の距離が 36 ~ 40 mm になるよう吊ボルトの位置を調整し、本体が開口穴の中央になるようスライドレール等で調整する。

お願い

- 天井開口穴と本体の位置にずれがないことを確認してください。位置がずれた状態で無理にグリルを取付けないでください。

7. グリルの取付け

縦格子グリルの場合

グリル枠には植毛が施してあります。汚さないよう注意して扱ってください。

1. グリル固定ネジをゆるめ、グリルをグリル枠から取りはずす。
(AS-908CSA 固定ネジ 4 本、AS-915CSA 固定ネジ 8 本)
2. グリル枠に、本体付属の位置決め用小ネジ (M4 × 20) を 4 か所締め付ける。このときグリル枠の片側 2 か所に落下防止ワイヤーを共締めする。
3. グリル枠に、共締めされた落下防止ワイヤーを本体付属の小ネジ (M4 タッピン) で本体に締め付ける。
4. グリル枠に、締め付けられた位置決め用ネジと、本体の取付穴の位置を合わせる。グリルに付属の小ネジ (M4 × 12) で本体に締め付ける。
(AS-908CSA 本体取付ネジ 4 本、AS-915CSA 本体取付ネジ 6 本、いずれのネジもグリルに付属)
5. グリルをグリル枠に取付ける。

お願い

- 落下防止ワイヤーは必ず取り付けてください。グリル落下の原因となります。
- グリルを取付けるネジは 1.65N・m 以下のトルクで締め付けてください。グリル破損や変形の原因となります。

ブリーズライングリルの場合

グリルおよびグリル枠には植毛が施してあります。汚さないように注意して扱ってください。

1. グリル枠に、本体付属の位置決め用小ネジ (M4 × 20) を4か所締め付ける。このときグリル枠の片側2か所に落下防止ワイヤーを共締めする。

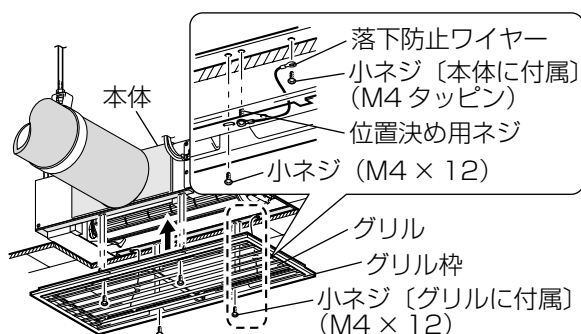
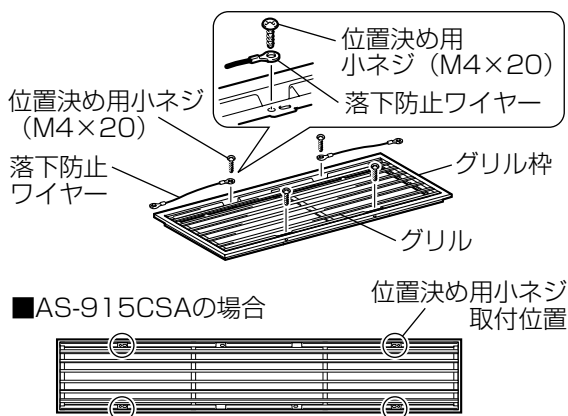
2. グリル枠に、共締めされた落下防止ワイヤーを本体付属の小ネジ (M4 タッピン) で本体に締め付ける。

3. グリル枠に、締め付けられた位置決め用ネジと本体の取付穴の位置を合わせる。

グリルに付属の小ネジ (M4 × 12) で本体に締め付ける。
(AS-908CSA 本体取付ネジ4本、AS-915CSA 本体取付ネジ6本いずれのネジもグリルに付属)

お願い

- 落下防止ワイヤーは必ず取り付けてください。グリル落下の原因となります。



4. 使用方法

お客さまへ

システム部材 (別売) のリモコンスイッチ (FS-02ASR) の取付・取扱説明書を参照してください。

5. お手入れのしかた

お客さまへ

警告

- お手入れの際は必ず分電盤のブレーカを切る
感電・けがの原因。

注意

- お手入れの際は手袋を着用する
けがの原因。

製品が高いところ (約4~5m) に据付けられている場合は、必ず販売店へ依頼してください。
比較的低いところ (約2~3m) に据付けられている場合は、両手で作業ができる安定した足場を設け、十分注意して行ってください。

縦格子グリルの場合

1. グリルの清掃をする

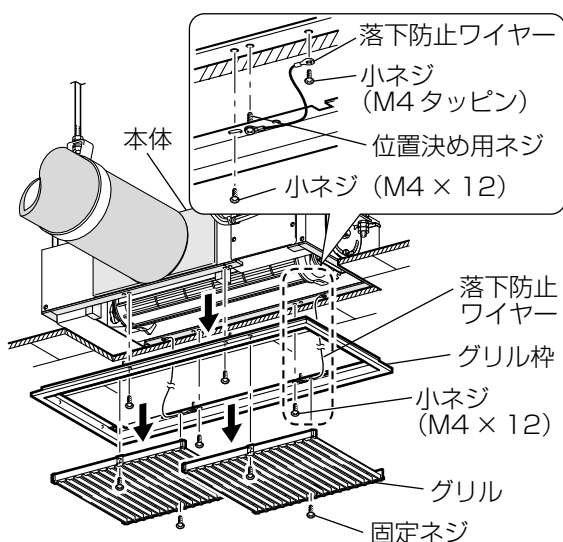
1. ドライバーでグリル固定ネジをはずしグリルをはずす。
2. 中性洗剤を入れたぬるま湯で洗う。

2. グリル枠の清掃をする

植毛が施してあります。掃除機で表面のごみ、ほこりを吸い取ってください。

汚れのひどい場合は業者に依頼をして、グリル枠取付ネジと落下防止ワイヤーをはずし、グリル枠をはずして清掃します。

お手入れ終了後は、取りはずしと逆の順序で元通り取付けます。



お手入れのしかた つづき

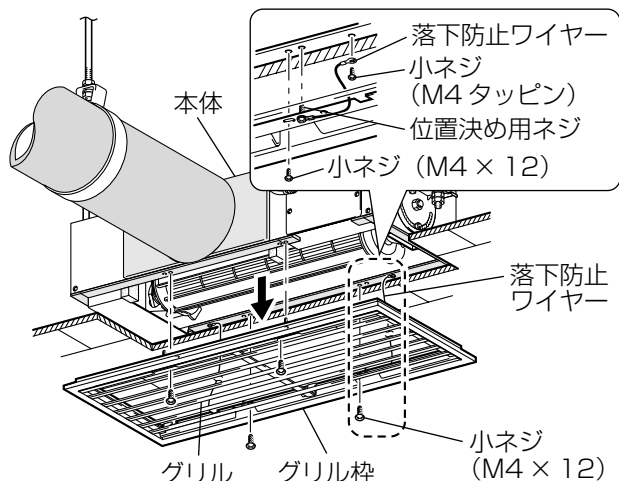
ブリーズライングリルの場合

1. グリル (グリル枠) の清掃をする

植毛が施してあります。掃除機で表面のごみ、ほこりを吸い取ってください。

汚れのひどい場合は業者に依頼をして、グリル枠取付ネジと落下防止ワイヤーをはずし、グリル枠をはずして清掃します。

お手入れ終了後は、取りはずしと逆の順序で元通り取付けます。



6. アフターサービス

お客さまへ

三菱エアー搬送ファンのアフターサービスは、お買い上げの販売店かお近くの「三菱業務用／産業用換気送風機 修理窓口・ご相談窓口」にご相談ください。

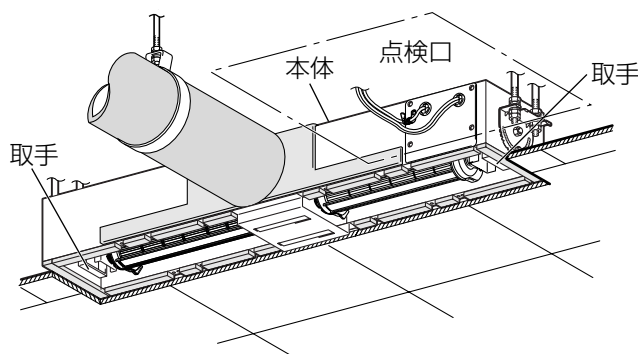
この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この三菱エアースイングファンの補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■補修用性能部品の交換作業

天井埋込取付の場合は、45 cm角以上の点検口を本体の横（電源線端子側）に設けてください。保守が容易に行えます。ファン取りはずしの際は取りはずし用の取手（AS-915CSA タイプのみ）を持って実施してください。（ファンケーシングおよび羽根の変形・破損防止）



7. 仕様

工事店さまへ

形名	電源	消費電力(W)		電流(A)		騒音(dB)		起動電流(A)		質量(kg)		
		50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	本体	ブリーズライングリル	縦格子グリル
AS-908CSA	単相 100V	33	34	0.35	0.35	33.5	37.5	0.52	0.51	9	3.3	1.7
AS-915CSA		41.5	46.5	0.44	0.47	37.5	40.5	0.84	0.79	16.5	6	3

※電気特性値、騒音特性値はグリル（別売 システム部材）を付けた場合の値です。
※ブリーズライングリル、縦格子グリルどちらを装着しても特性値は同じです。
※風量はグリルを取付けない状態でのオリフィスチャンバー法による静圧 0Pa 時の参考値です。
※騒音は吹出口直下 3m 地点の A スケール値です。

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

■平日9:00～12:00 13:00～19:00（土・日・祝を除く）換気送風機技術相談センター 電話0120-726471

この説明書は、再生紙を使用しています。